

「ポレーシエ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯の呼称です。



2023年7月15日発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

チェルノブイリ原発事故から37年目を迎えて



「世界を救った消防士たちの記念碑」に
献花をするホステージ基金のドンチェヴァさん

ウクライナの友人の皆さんへ

今日は4月26日、チェルノブイリ原発事故から37年目を迎えました。放射能の被害に苦しんできた皆さんが、今はロシアによる侵攻で日々苦しんでおられる事を思うと、とても辛いです。厳しい寒さの冬をしのぎ、ようやく美しい春を迎える季節だというのに、明日をも知れない毎日を暮らす皆様に心から同情します。

戦争が一日も早く終わり、皆様が穏やかな生活を取り戻す日が来るよう祈っています。その日が来るまで、日本の私達も皆様と心をつなげて頑張ります。

2023年4月26日

NPO 法人チェルノブイリ救援・中部

チェルノブイリ原発事故と私 ～前編～

長野県塩尻市在住 新規会員 関 浩行

1986年の春のある日、私は静岡県御前崎の海岸を西に向かって歩いていました。

当時横浜に住んでいた私は長野へ転居するのの前に、海を思い切り感じたいと選んだのがこの御前崎でした。波の音を聞きながら目の前の大きく広がる太平洋の景色を楽しんでいたのですが、しばらくすると、その景色にそぐわない、大きくて異様な建物が目に入ってきました。何だろうと近づくと、敷地の周囲に有刺鉄線が張られ何やら物々しい雰囲気。もしかしてこれはゲ・ン・パ・ツ？そう、それは浜岡原子力発電所でした。原発自体にあまり関心がなかったこともあって、御前崎のこんなに近くに浜岡原発があるとはと、突然の出現にとにかく驚くばかりでした。そして横浜に帰ると、それ以上の驚きが……。ソ連の原子力発電所で大事故が起きたというニュースが飛び込んできたのです。

そう、私が浜岡原発と予期せぬ遭遇をしたのは、今でも忘れることのない、あの1986年4月26日でした。

生活クラブ生協神奈川の職員だった私は、出身地長野の生活クラブへの移籍を申し出てその年の5月に松本に移りました。安全な食材を求めて共同購入活動を展開していた生活クラブではこの原発事故を受けて、37ベクレル以上の放射能が検出された食品を供給しないことになりました。この37ベクレルは、国が輸入制限をかけた370ベクレルの10分の1の値で、放射能が健康に及ぼす影響に関してどの数値以下なら良いというものではないという基本方針の中、実際に

起きてしまった放射能汚染の下での危機管理上の措置として定めたもので、国の基準値が汚染の激しい欧州各国と同じレベルだったことへの抗議も含めて決めたのです。当初、これは汚染地からの輸入品を想定した措置で、イタリアから輸入していたスパゲティ、マカロニなどが供給停止となりましたが、それだけではない思わぬ問題が生じたのです。何と、国産の農産物からも基準値を超える品目が出てきてしまったのです。それは、お茶でした。三重県度会郡で、当時先駆的に無農薬・有機栽培に取り組んでいた提携生産者のお茶から、37ベクレルを超える放射能が検出されたのです。生産者には何の落ち度がないにもかかわらず、両者協議の中、苦渋の決断として供給停止となりました。そして、国の基準値以下で一般市場には出荷できなくなるともかわからず、渡会の生産者はその方策は取らず、丹精込めて栽培したお茶を、泣く泣く「お茶のお葬式」でお見送りしました。

このように遠く離れた日本国内でも農産物が汚染されたという問題もありましたが、あのころ一番懸念されていたのは、汚染地からの農産物を規制の緩い汚染地以外の国を経由させたり、汚染された農産物を加工品にして流通させることで規制をかいぐぐらせ、それが食糧輸入大国の日本に押し寄せてくるのではないかということでした。そのような状況から私たちの食生活を守っていくには、国内自給率を上げることと同時に、共同購入等によって、自分の食べるものの原材料・作り方など素性のわかる仕組みを作っておくことが大事だということを改めて学んだのでした。

(次号へ続く)

ウクライナ緊急支援報告会 開催

4月15日、中部土木様(名古屋市長東区)のご厚意でホールをお借りし、報告会を開催しました。

ウクライナへの緊急支援を開始してちょうど1年。思いもかけないほどの多くのご支援をいただき、私たちにとり可能な限りのスピードで、ウクライナに支援金や

物資を送りました。

今回はこの1年の総決算の意味での報告となりました。



2023年度通常総会 開催

6月10日、なごや人権啓発センター ソレイユプラザなごやにて今年度の通常総会を開催しました。

正会員43名のうち31名(そのうち書面出席19名)の出席を得て総会は成立し、昨年度の事業報告、会計報告などすべての議案が承認されました。

今年度も「戦禍のウクライナの人々を支援する事業」「南相馬のひとり親家庭や子ども食堂への支援」などを主に行っていきます。

このたび3名の理事が退任し、理事は8名(全員再任)となりました。総会後の互選により、引き続き理事長に池田光司さん、副理事長に原富男さんが決まりました。

ウクライナと出会う

小牧 崇

32年前、チェルノブイリ訪問団の一員としてウクライナを訪れた。この旅は原発事故被害の実態を目の当たりにする、と同時に「ウクライナ」と出会う旅でもあった。

ウクライナ……ソ連の穀倉地帯、コサックの故郷、そしてチェルノブイリ。ウクライナに関する私の知識はこれくらいのもの。ウクライナ行きが決まって、あわててロシア語会話の小冊子を購入したものの、ロシア語とウクライナ語は異なることを後で知って、結局なんの勉強もしなかった。

ウクライナ語はロシア語・白ロシア語と同じ東スラブ語に属しており、ロシア語と極めて近い関係にあるらしい。通訳をお願いしたロシア青年イリヤは、会話は特に勉強しなくても半分くらいわかる、むしろ文字表記の相違が大きいと言っていた。実際、イリヤも、またキエフ～モスクワ間の機内で知り合ったロシア人のインテリもヴィスニーク紙（ウクライナ語の新聞）をあまり読めない様子だった。田舎で出会った年配者のウクライナ語での会話をイリヤが十分に理解した風もない。会話では日本で言えば方言くらいの違い、文字ではもう少し大きな違いになるのだろう。

ジトミルで見かけた我々以外の外国人はポーランド人のみ。修復中のウクライナカトリックの教会を見ても、ポーランドとの縁の深さを感じる。帰国して歴史地図を見てその謎が少し解けた。ドニエプル河以西は18世紀までポーランド領で、あの「ポーランド分割」によってロシア領に組み込まれた地なのだ。

(中略)……八月政変後、ウクライナも独立宣言をしている。新聞報道ではウクライナが自立度ナンバーワンだそうだ。しかし、ソ連の解体を肯定的にとらえているイリヤでさえ、ロシア・白ロシア・ウクライナは今後も一体でありたいと願っている口ぶりであり、事はそう簡単には進まないだろう。互いに傷つけ合う事なくロシア・ウクライナが今後よい関係を築いていってほしいと願わずにはいられない。

(1991. 10)

最初のウクライナ訪問の際、私のウクライナ認識はソ連内の一地域でしかなかった。だから陸路でのウクライナ入りに際して現地メンバーのかしこまった挨拶に新鮮な衝撃を受けたのだった。その後、食事の話題に独立が頻繁に取り上げられ、キエフで民族派集会(注)を見るにつけ、この国はいずれソ連・ロシアから離れるだろうとの確信めいたものをもった。

(注) 8月18日の日記より・・・ホテルへ戻る途中、クレシチャーチク大通りの広場で民族派の集会に出くわした。黄色と青の旗がひるがえり演説がつづく。参加者は200名くらいだろうか。後ろには警官が数名いたが和やかな感じだ。コセンコさんがこの民族派をさして、彼らは「デモクラット(民主派)、ノットファシスト」と説明してくれた(翌日ニュースでゴルバチョフの失脚を知る)。

帰国後、想像をはるかに越えるペースで事は展開し、12月1日に実施された独立の是非を問う国民投票では、9割以上の賛成票を得て独立国ウクライナが誕生した。

その後30年余り、ウクライナ社会は、時に混乱も経験しながら民主化の道を歩んできた。一方、当時感じたウクライナとロシアの不安定な関係は現在残念な事態を迎えている。私はウクライナの人々に寄り添って、ウクライナの平和と復興を求めていきたいと思う。



1991年 ナロジチ

キーウを逃れて イリーナ・ペトリチェンコ



突然ですが、主食は何がお好きですか。

ぼかぼかのご飯や軟らかめの食パンを連想された皆さんが多いかと思いますが、世界的に見てこの「二者択一」だけではありません。たとえば、私はオートミールが好きでほぼ毎朝食べたり、パンなら黒パンやシードパン／くるみパン、菓子パンにしたり、ときどき蕎麦の実やキビ、玄米などを野菜入りで炊いたりします。友人には、ジャガイモ料理が主食の人、クレープやパウンドケーキを毎日作る人、炭水化物をあまり食べない人、いろいろです。

そして、3月には自分の郵便受で「東京都おこめクーポン」※¹を発見しました（図表参照）。

お選びいただけるコース	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
No. 1 お米25kg (2回配送)コース	1回目 お米10kg (5kg×2袋)		+		2回目 お米15kg (5kg×3袋)		
No. 2 お米25kg (3回配送)コース	1回目 お米10kg (5kg×2袋)		+		2回目 お米10kg (5kg×2袋)		3回目 お米5kg (5kg×1袋)
No. 3 お米15kgとカット野菜(水蒸)パックコース	1回目 お米15kg (5kg×3袋)		+		2回目 カット野菜(水蒸)パック ×8 ×2		
<small>※お米15kgとカット野菜(水蒸)パックの配送順は逆になる場合があります。順番は選べません。</small>	1回目 お米15kg (5kg×3袋)		+		2回目 飲料(緑茶)		
No. 4 お米15kgと飲料(緑茶)コース	1回目 お米15kg (5kg×3袋)		+		2回目 果実飲料等 (1種類)		
<small>※お米15kgと果実飲料等の配送順は逆になる場合があります。順番は選べません。</small>	1回目 飲料(緑茶)		+		2回目 パックごはん (30食入り)		
No. 6 飲料(緑茶)とパックごはんコース	1回目 うどん(乾麺)		+		2回目 飲料(麦茶)		3回目 飲料(緑茶)
<small>※うどん(乾麺)と飲料(麦茶)と飲料(緑茶)の配送順は上記と異なる場合があります。順番は選べません。</small>	1回目 飲料(緑茶)		+		2回目 飲料(麦茶)		3回目 果実飲料等 (1種類)
No. 7 うどん(乾麺)と飲料(緑茶)と飲料(麦茶)コース	1回目 飲料(緑茶)		+		2回目 飲料(麦茶)		3回目 果実飲料等 (1種類)
<small>※飲料(緑茶)と飲料(麦茶)と果実飲料等の配送順は上記と異なる場合があります。順番は選べません。</small>	1回目 お米15kg (5kg×3袋)		+		2回目 東京都産野菜		
No. 8 飲料(緑茶)と飲料(麦茶)と果実飲料等コース	1回目 お米15kg (5kg×3袋)		+		2回目 東京都産野菜		
WEB限定 お米15kgと東京都産野菜コース	1回目 お米15kg (5kg×3袋)		+		2回目 東京都産野菜		

非常にサプライズで支援自体は嬉しかったのですが、白米も麺類も苦手な私が自力で消費し切れるのは8番（飲料コース）だけ。それを第一希望にして、おすそ分けを前提に6番（第二希望）と3番（第三希望）に決めました。そして先日届いたのは、どんと精米15キロ、つまり、おすそ分けとしては一番「重い」選択肢です。運がよく、すぐ隣のウクライナ避難者一世帯が喜んで10キロも受け取ってくれましたが、残り5キロは、どうしようと処分に悩んでいるところです。

一方、このあいだ強く心に響いたのは、あるネット記事※²のことばです。NPO 青少年自立援助センターで定住外国人支援事業部の責任者を務める田中宝紀さんがウクライナ避難民について「支援を『与えられる』立場にすることで、余暇を楽しむことを批判される、感謝の意を常に表明しなくてはならない、など『貧しくてかわいそうな人』でいることを強要し、日本に『いさせていただいている』という気持ちを抱かせるかのような無言の圧力が存在するのも、日本社会において避難民が抱える課題であると感じます」とインタビューで述べました。これを読んだとき、自分のモヤモヤと感じたことが言語化されたような気がしました。

皆さんは、いかがでしょうか。自分自身の価値観を他人に押し付けたりしていませんか。私は自分について「したことが無い」と断言できませんが…（次号へ続く）

※1. <https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2023/02/17/07.html> (2023年5月14日閲覧)。

※2. <https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2023/87670/ukraine> (2023年5月14日閲覧)。

5月31日岸田政権は重大な法案を可決成立させ国会を閉会した。その中で福島原発事故を踏まえ、これまで原則40年としてきた原発の運転期間を60年以上に認める事になった。関西電力は、現在最も老朽化した高浜1号原発を7月にも再稼働すると6月21日に発表し、現在燃料搬入を始めている。9月には同じく老朽原発の高浜2号も再稼働させるという。脱炭素やロシアによるウクライナ侵攻を口実に進めるGX(グリーントランスフォーメーション)は、この国の未来に重大な危機をもたらす恐れがある。因みにドイツは4月15日、稼働中の3基の原発を停止し脱原発を完了した。

老朽原発の危険性

どんな機械でも古くなれば事故が起こる。購入後40年以上同じ車を使う人は居ないだろう。機械装置のトラブルや事故の頻度は「鍋底曲線」というグラフで示される。開発当初は不具合が多く事故が多発する。それを修理し次第に事故発生率は減って、ある期間安定化するが寿命が近くなると再び事故の頻度が上がり終焉を迎える。様々な部品が古くなり劣化するからである。原発の開発当初は運転期間が原則30年と設計された。部品の数が多いほど事故は多発する。原発の部品は数百万点に上る。定期点検中に交換可能な部品は交換するが、どうしても交換できないものがある。その一つが「原子炉圧力容器」である。厚さ20cm、直径6mの巨大な圧力容器は原発の本体そのものであり交換不能である。圧力容器の劣化で原発の寿命は終わる。それを無視して運転を続ければ大事故につながる。

圧力容器の劣化はなぜ起こる

稼働中の原子炉の中はウランの核分裂で生じた中性子が飛び交い、核分裂の連鎖反応を起こしている。中性子は核燃料以外の構造物にもぶつかり、吸収されて相手を異なる元素にしたり(水に吸収されてトリチウム水ができる)、金属の結晶構造を破壊する。圧力容器を構成する鉄鋼には、マンガンやニッケルなどを含み、高い圧力や熱に耐えるように設計されているが、長い間中性子にさらされるとこれらの元素が中性子を吸収して異

なる元素になり、金属の結晶構造が壊れて温度変化や圧力変化に脆くなる。これを「脆性破壊」という。地震などで緊急停止し自家発電装置も動かなくなった場合、外部から冷却水を注入した際に脆性破壊が起こると圧力容器が壊れる。運転期間が長引く程圧力容器はもろくなる。これまで福島原発事故を踏まえて原発の運転期間を原則40年としてきた。

老朽原発の運転期間延長と無責任体制

高浜原発1号は1974年に運転を開始したが、福島原発事故後運転停止していた最も古い原発である。これを再稼働させる。今後は、運転開始後の期間から定期点検や安全審査などで停止中の期間を除いて、10年ごとに安全点検をし運転を伸ばすという。このままいけば60年~70年延長も可能となる。それに伴い更に大きな変更があった。原子力規制委員会は安全審査するが規制基準に合格か否かを判断するだけで、運転延長にはタッチしない。規制委員会の審査結果を受けて運転延長すべきか否かを判断するのは経済産業省である。その結果何が起こるか。大事故が起こった際、規制委員会は「基準に合格か否かを判断しただけ」と主張し、経産省は「安全委員会が安全と行ったから延長を認めた」と互いに責任を擦り付け合うだろう。大事故が起こっても誰も責任を取らない体制が確立されたのである。この国の未来は危うい。

(2023年6月22日 河田)

2022年度 活動計算書

特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部
(特定非営利活動に係る事業会計)

(単位:円)

自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日

科目	金額	金額	
【経常収益】			
1. 受取会費	正会員受取会費 賛助会員受取会費	102,000 404,000	506,000
2. 受取寄付金	ミルク支援 チェルノブイリ支援 福島原発被災支援 一般寄付 ウクライナ救援基金	500,321 473,566 169,067 4,279,272 16,832,959	
3. 受取助成金		0	0
4. 事業収益	福島支援事業 イベント関連事業	131,037 0	131,037
5. その他の収益	雑収入 受取利息 為替差益	88,200 118 3,521	91,839
経常収益 計			22,984,061
【経常費用】			
1. 事業費			
(1) 人件費	給料手当・日当 人件費計	0 0	
(2) その他経費	業務委託費 支援金 印刷製本費 諸謝金 旅費交通費 通信費 荷造運搬 消耗品費 賃借料 売上原価 諸会費 支払手数料 雑費 その他経費計	482,642 14,660,736 294,941 32,274 47,315 140,629 961,334 136,217 8,000 102,107 10,000 203,169 0 17,079,364	17,079,364
事業費 計			
2. 管理費			
(1) 人件費	給料手当 法定福利費 人件費計	1,809,500 5,605 1,815,105	
(2) その他経費	通信費 荷造運賃 水道光熱費 旅費交通費 会議費 消耗品費 印刷製本費 地代家賃 保険料 租税公課 諸会費 支払手数料 雑費 為替差損 その他経費計	169,943 770 119,809 46,820 22,110 337,787 87,852 802,000 7,730 1,200 36,000 97,089 3,000 2,286 1,734,396	3,549,501
管理費 計			
経常費用 計			20,628,865
当期正味財産増減額			2,355,196
前期繰越正味財産額			11,819,559
次期繰越正味財産額			14,174,755

※定款(事業)第5条に基づく「その他の事業」は実施していません。

2022年度 財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)による。

- (1) 棚卸資産の評価基準は原価基準、評価方法は最終仕入原価法による。
- (2) 有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をする。
- (3) 消費税等の会計処理は、税込経理方式による。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位：円)

科目	医療機関支援事業	粉ミルク支援事業	被災者団体支援事業	クリスマスカード事業	業務委託事業	通信誌発行事業	イベント関連事業	福島原発被災支援事業	ウクライナ救援事業	事業部門計(A)	管理部門(B)	合計(A+B)
経常収益												
受取会費 受取寄付金 (指定寄付)	236,783	500,321	236,783					169,067	16,832,959	17,975,913	506,000	506,000
受取寄付金 (指定なし按分)	273,873		273,873	42,793	205,406	231,080	115,541	1,245,268		2,387,834	1,891,438	4,279,272
受取助成金										0		0
事業収益								131,037		131,037		131,037
その他の収益									31	31	91,808	91,839
経常収益 計	510,656	500,321	510,656	42,793	205,406	231,080	115,541	1,545,372	16,832,990	20,494,815	2,489,246	22,984,061
経常費用												
(1)人件費												0
給料手当・日当											1,809,500	1,809,500
法定福利費											5,605	5,605
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,815,105	1,815,105
(2)その他経費												0
業務委託費					482,642					482,642		482,642
支援金	600,000	400,000	600,000		120,000			400,000	12,540,736	14,660,736		14,660,736
印刷製本費		499		4,010		220,750			69,682	294,941	87,852	382,793
会議費										0	22,110	22,110
諸謝金								10,000	22,274	32,274		32,274
旅費交通費				2,490			720	44,105		47,315	46,820	94,135
通信費				6,668		102,366	520	27,945	3,130	140,629	169,943	310,572
荷造運搬費				129,320		254,334		12,320	565,360	961,334	770	962,104
消耗品費				29,904		745	1,408		104,160	136,217	337,787	474,004
地代家賃										0	802,000	802,000
水道光熱費										0	119,809	119,809
貸借料				8,000						8,000		8,000
売上原価								102,107		102,107		102,107
保険料										0	7,730	7,730
租税公課										0	1,200	1,200
諸会費								10,000		10,000	36,000	46,000
支払手数料	10,244	9,564	14,044	110	28,500			4,273	136,434	203,169	97,089	300,258
雑費										0	3,000	3,000
為替差損											2,286	2,286
その他経費計	610,244	410,063	614,044	180,502	631,142	578,195	2,648	610,750	13,441,776	17,079,364	1,734,396	18,813,760
経常費用計	610,244	410,063	614,044	180,502	631,142	578,195	2,648	610,750	13,441,776	17,079,364	3,549,501	20,628,865
当期経常収支差額	-99,588	90,258	-103,388	-137,709	-425,736	-347,115	112,893	934,622	3,391,214	3,415,451	-1,060,255	2,355,196

3. 用途等が制約された寄付金等の内訳

用途等が制約された寄付金等の内訳は以下の通りです。当法人の正味財産は14,174,755円ですが、そのうち9,973,058円は下記のように用途が特定されています。したがって、用途が制約されていない正味財産は4,201,697円、当期正味財産増減額は△1,126,276円です。

(単位：円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
ウクライナ救援基金	6,081,489	16,832,990	13,441,776	9,472,703	軍事侵攻に対する人道支援物資購入等の資金
粉ミルク支援	410,097	500,321	410,063	500,355	ミルクキャンペーン支援金500,000円は翌期に送金
合計		17,333,311	13,851,839	9,973,058	

2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)の会計報告を監査した結果、異常なく正当に処理されていることを証明します。

2023年 5月 17日 監査人 大谷 早苗 (印)

【寄付・会員状況のお知らせ】

- ◆3月 寄付／会費 453,100 円
- ◆4月 寄付／会費 337,265 円
- ◆5月 寄付／会費 210,185 円
- ◆2023 年度累計（ウクライナ救援基金を除く）
547,450 円（5 月末）
- ◆ウクライナ救援基金 23,113,548 円（2022/3/7～2023/5/31）
- ◆会員数 180 名 ◆ポレーシエ読者数 667 名

※ポレーシエ 194 号に誤記がありました。正しくは以下の通りです。
お詫びして訂正いたします。

- ◆1 月寄付／会費 328,330 円 ◆2 月寄付／会費 239,000 円
- ◆2022 年度累計（ウクライナ救援基金を除く）5,412,126 円（2 月末）

【寄付のお願い】

- ◆一般寄付
三菱UFJ 銀行 高畑支店 普通 1682863
- ◆ウクライナ救援基金
三菱UFJ 銀行 名古屋営業部 普通 6949211
- ◆郵便振替 00880-7-108610
〈口座名義〉
特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部

*クレジットカードでも受け付けております
(ページ下の QR コードから寄付ページへアクセス！)

※領収書が必要な方はご連絡ください

当団体は「認定特定非営利活動法人」ではございませんので、ご寄附は税額控除の対象にはなりません。
ご了承のほどお願いいたします。

事務局だより

～ウクライナ救援募金のお願い～

ロシアによるウクライナ侵攻からもう 1 年5か月を迎えようとしています。ウクライナによる反転攻勢、カホフカダム破壊など大きなニュースは流れますが、侵攻直後のようなウクライナ国内を詳しく伝えるニュースはテレビではほとんど見かけません。一方、ホステージ基金、ドンチェヴァさんからは、先週末(6/9)にもジトーミル州内で民間の地域を狙った爆撃があり、58 の建物が損害を受け、撃墜されたミサイルの破片が落下して亡くなった方、負傷者も複数・・・との報告がありました。ウクライナ各地で、悲しい現実が続いています。

皆様からのご支援により「ウクライナ救援基金」には、昨年度 16,832,959 円のご寄附が寄せられ、ウクライナ国内へ 12,540,736 円の支援金を送金することができました。支援金は、ジトーミル州内の病院や施設への医療機器の他、地雷除去技術者向けの救急箱や安全メガネ等の購入にも充てられました。さらに、ウクライナの戦闘が激しい地域からジトーミル州内に避難している方向けの家具家電等の整備、キエウ州で爆撃を受けた人々の支援をしている団体ゼムリヤキへも送金することができました。(※)

「ウクライナ救援基金」開始当初と現在の寄附額についてお伝えします。

2022 年 4 月：6,945,406 円 同年 5 月：1,969,504 円

2023 年 4 月： 94,500 円 同年 5 月： 104,600 円

比較すると違いが歴然となっておりますが、改めて、皆様からのご協力をお願いしたいと思います。ウクライナとの 30 年以上に亘る関係を活かし、現地と協議しながら、支援金を必要な方に確実に届け、また、そのご報告していくことを今後も続けていきます。

(※) 支援の詳細についてまとめた表をHPに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

URL: <http://www.chernobyl-chubu-jp.org/>



安全メガネと救急箱を
身に着ける
地雷除去技術者



「ゼムリヤキ」タマラさん(右から 2 番目)



発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

〒460-0012 名古屋市千代田 5 丁目 11-33 ST PLAZA TSURUMAI 本館 5B

TEL&FAX 052-228-6813 (月・水・金 10:00 ~ 15:00)

E-mail chqchubu@muc.biglobe.ne.jp URL <http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

印刷 エープリント

